

YOSAKOI ソーランと私

北星学園大学社会福祉学部福祉臨床学科 1 年 ^{やまもとけいすけ} 山本圭介ⁱ

私が YOSAKOI ソーラン部に入部したのは今年の四月だった。大学に入学したての私は大学生活の中で自分が一生懸命になれる何かを見つけたかった。学校に行って勉強をして、バイトをして、という日々の繰り返しの大学生活は絶対に送りたくなかった。そんな私の目に飛び込んできたのが YOSAKOI ソーランの文字だった。YOSAKOI ソーラン祭りがあることは知っていたし、何度か見に行ったこともある。それに昔から歌や踊りは好きだった私にはうってつけのものだと思い入部を決意した。実際に入部して活動が始まると本当に毎日が楽しくて新鮮でやりがいのある大学生活になっていくのが自分自身実感することが出来た。

集団で何かひとつの目標に向かって動くというのは、すごく難しいことなのだが YOSAKOI ソーランの活動はその難しさの中に楽しさを発見させてくれた。ただ踊るのが YOSAKOI ソーランではなかった。今までいろんな活動をしてきたが YOSAKOI ソーランみたいに、仲間との一体感を味わえるものはなかった。私が期待していた以上の魅力がそこにはあった。

YOSAKOI ソーランの活動でいろんなところに行くなかで、札幌市外の人たち、他大学の学生との交流を深めることもできて、自分の世界が広がっていくことがすごく楽しい。踊りを通してすごい勢いで人の輪が作られていく、その様子にはいつも驚かされる。

九月に仙台で行われた「みちのくヨサコイ祭り」には学生合同チーム 110 名で参加してきたが、仙台の学生との交流などでもできたし、札幌の祭りの時には別々のチームにいた人たちと「みちのくヨサコイ祭り」という目標に一丸となって取り組めたことに誇りに思う。5 泊 6 日というとても短い日々だったが、ヨサコイをやってよかったと思える仙台だった。

来年で 11 年目を迎え、参加チーム、観客動員数と共に増加している YOSAKOI ソーラン祭りはさらなる飛躍をしようとしている。そんな祭りに一人でも多くの人を巻き込むためにもっと積極的に活動をして、その活動の中で自分自身が今以上に成長していけたらいいと思う。

ⁱ E-mail: taniro@hokusei.ac.jp